

# 千葉菌類談話会通信

## Chiba Mycological Club Bulletin

	ページ
目次：表紙によせて コガネタケ.....	2
図書紹介シリーズ（三）.....	3
講座報告.....	4
採集会案内・記録.....	8
本の紹介.....	10
お知らせ.....	10
キノコクロスワード.....	12



Sep. 1993 No. 5

# コガネタケ

表紙によせて.....北川 公子

うーんとむかしの話だよ。

その年は夏だってえのに、すうんごくさむくてな、  
日が照るどころか雨ばかり降って、秋になんでも米ひとつ獲れねえ。  
村人は、はらのむしをかかえて毎日をすごした。

「しかたねえ、林の木さ売ることにすべか」

「しかしなあ、あれは先祖代々守りぬいてきた大切な林じゃけえ、  
切ることはできねえ。」

そんなこんなしている、月がとっても明るい夜だった。

いつもよりずーっと遅く床につこうとしたとき、おぬえどん  
は妙な声を聞いた。



ほいさ さらさら ほいさ さらさら

もっとだせ やれだせ さらさら ざらざら

いぶかしげに外をみると、大勢のお坊さんがかぶっていた金色の笠から光る粉を戸口にま  
いていました。

ほいさ さらさら ほいさ さらさら

もっとだせ やれだせ さらさら ざらざら

どの家もどの家も月明りに照らされて、きらきら星が降ってきたようです。

やがてお坊さんたちは、すーっと林のほうへ消えていきました。

おぬえどんは、そのときとても眠かったので幻覚でも見たんだろうと、きにとめませんでした。

翌朝、おぬえどんは村人たちの声で目がさめました。

ゆうべのお坊さんたちがまいていったのは、なんと高価な砂金だったのです。

「ありがてえ、ありがてえ」「しかし、だれが……だれかしらねえかあ」

「おらしらん」「おらもしらん。おぬえどん何かしらないかあ」

おぬえどんは、かくかくしかじか、ゆうべ見たことを話しました。

「しかし、見たことのないお坊さんだったが、はて……どこのお坊さんたちだろか」

村人たちは不思議に思いながらも、ありがたく砂金をちょうだいいいたしました。

そして数日後。おぬえどんは、冬が来る前にしばをかろうと林の中に分け入っていました。林の中には壊れかけたお堂がひとつぽつんと建っていましたが、そこが今日はぼうつと明るく光っています。

おぬえどんがいってみると、お堂のうらに金色のこなをかぶったきのこが行列をなして並んでいました。もうすでに枯れて傘もとれかかっていましたが、なにか心当たりがあるようを感じました。

「そういやあ、どこかで……うああっ」

おぬえどんは先日のお坊さんたちはこのきのこたちに違いないと思い、手厚くほうむりましたと。そして、壊れかけたお堂は、村人の手によって立派に建て直されました。

それ以来この村は、雨降りにも、日照りに悩まされることも、なくなったということだよ。あとでわかったことだが、このきのこは‘こがねたけ’といってな、いまでも秋になると  
はえるそな。

びーひやららのとんからりん。

## キノコに関する図書紹介シリーズ（三） 腰野 文男

### ～日本各地のキノコ図鑑（誌）～

キノコに関する図書紹介シリーズ（一）（二）で図鑑類とキノコ料理に関する本を紹介しましたが、今回は日本各地から出版されている地方のキノコ図鑑（誌）類を紹介いたします。はじめに、これまで入手出来たものを北海道・東北など北国から南下して九州にいたる順に列記してみました。

1. 「カラー北海道のきのこ図鑑」（1979） 仁和田久雄著 （株）総北海￥2000
2. 「北海道のきのこと山菜」（1975） 村田義一、原秀雄著 北海タイムス社￥1200
3. 「北海道のキノコ」（1988） 五十嵐恒夫著 北海道新聞社￥2000
4. 「原色北海道のきのこ」（1977） 村田義一著 北海タイムス社￥1500
5. 「青森県のきのこ」（1979） 成田伝蔵著 東奥日報社￥1800
6. 「続青森県のきのこ」（1985） 成田伝蔵著 東奥日報社￥1500
7. 「岩手県のきのこ」（1985） 岩手県菌類研究同好会 （株）トリヨーコム￥2000
8. 「秋田のきのこ」（1982） 畠山陽一著 無明舎出版 ￥1800
9. 「雪国のきのこ」（1985） 高橋喜平、矢萩礼美子、高木国保、角田良一著（株）能谷印刷￥1500
10. 「宮城県のきのこ」（1980） 高橋和吉、吉田仁志、松永和久著 仙台宝文堂￥1500
11. 「茨城県のきのこ」（1984） 伊沢正名、川嶋健市、内田正宏著 茨城新聞社￥2300
12. 「群馬のきのこ」（1981） 深井三郎著 上毛新聞社￥1600
13. 「神奈川の植物ときのこ」（1984） 神奈川県植物ときのこの会（株）暁印書館￥2800
14. 「新潟県のキノコ」（1981） 松田一郎著 新潟日報事業社￥2000
15. 「長野県のきのこ」（1986） 上小食品衛生協会
16. 「信州きのこ百科」（1982） 信州きのこ研究会 信濃毎日新聞￥2000
17. 「山梨のきのこ」（1986） 柴田尚著 山梨日日新聞社￥1200
18. 「京都のキノコ図鑑」（1986） 吉見昭一、高山栄著 京都新聞社￥2500
19. 「岡山のキノコ」（1986） 武丸恒雄著 山陽新聞社￥2000
20. 「徳島県のきのこ図鑑」（1984） 大橋孝著 徳島新聞社￥2500
21. 「九州のきのこ」（1984） 熊本きのこ会、大分きのこ会 熊本日日新聞社￥2500

地方きのこ誌については滋賀大学名誉教授の本郷次雄先生が菌草第31号（1985）第9号の中で次のように述べておられます。……「地方きのこ誌を100%は信用してはならない」ということである。もちろん地方きのこ誌の中にもあとで述べるようにたいへんすぐれたものもある。しかし、一部に地方のきのこ狩りの「天狗たち」がきわめておそまつな知識で執筆したまちがいだらけのものもある。同定も記述もまちがいが多く、目をおおいたくなるくらいである。……「地方のきのこ誌のうちで良書として推薦し得るものにつぎに二、三あげておく。これは地方だけではなく全国的にも推薦できる好参考書で、写真はすぐれ、同定や記述は信用でき、また従来の図鑑類には出ていない種類も扱われている」……説文は長くなるので省略させていただきますが、本郷次雄先生が良書として推薦する地方きのこ誌（図鑑）は、

4. 「原色北海道のきのこ」（1977） 村田義一著 北海タイムス社￥1500
11. 「茨城県のきのこ」（1984） 伊沢正名、川嶋健市、内田正宏著 茨城新聞社 ￥2300

14. 「新潟県のキノコ」 (1981) 松田一郎著 新潟日報事業社 ¥2000

21. 「九州のきのこ」 (1984) 熊本きのこ会、大分きのこ会 熊本日日新聞社 ¥2500

このほか、現在出版になっているが入手できなかったので紹介がもれた地方のきのこ誌があると思いますが、これは入手次第追って会報で紹介することにします。

## 講座「キノコ写真の撮り方」を受講して

腰野 文男

講 師：伊沢 正名 助 手：田中 弘美

日 時：1993年6月19日（土） 10:30～15:00

場 所：千葉県立中央博物館（会議室および生態園）

森の神秘に魅せられる様なキノコの美しい写真。落ち葉やコケに囲まれた生育環境も伊沢さんの撮ったキノコの写真には美しく見事に表現されており、キノコ写真愛好家には垂延の的であった。”伊沢流写真術の奥義を教えてもらえないだろうか”と云うのはキノコの写真を撮っているものなら誰でも待望している事で、千葉県菌類談話会の6月19日に開かれた講座”キノコ写真の撮り方”はそのまたとない絶好の機会であった。講座が始まつて一言も聞きもらすまいと一斉に伊沢さんにそそがれた受講者の熱っぽい目がそれを物語っていた。当日、欠席された会員の中には”ぜひ、聞きたかった”と云う方もあると思うので、ここで講座の内容を要約してお知らせしたいと思う。講座はラフな格好をした伊沢さんが写真機や三脚など写真用具を周りにおいて「私は話が苦手でして」と云いながら独特な口調で始まった。

### ○キノコの写真を撮って失敗する原因是なにか

花の場合は花だけピントをあわせればいいが、キノコの場合は全部にピントがあわないとわからないので、植物の花を撮る感覚でキノコを撮ると失敗する。キノコは殆ど林の中の暗いところに生育しているので露出も長時間の露出になる。一番長かったのは2時間半で発光キノコのときである。日中でも4～50秒のときがあり待っているのは大変だからおしこをしてしまつ。（会場大笑）

### ○カメラ

オートフォーカスは殆ど使つた事がない。オートフォーカスのカメラは真中だけしかピントが合わなかつたりするので、マニュアルフォーカスのカメラを使用しており、現在はペンタックスLXを使用している。ペンタックスLXの利点としては、ファインダーの交換が出来ること。ウェストレベルのアングルファインダーをつけるとロー・アングルで撮り易い。

### ○レンズ

・50ミリのマクロが等倍（フィルム面に実物と同じ大きさに写る倍率。ペンタックスはオートフォーカスのレンズのみ等倍のレンズを出している）まで撮れるので8～9割は間に合う。凝つたことをやりたい場合は28ミリの広角レンズをそろえるとよく、2本目のレンズはこれをすすめる。

・100ミリのマクロは昆虫等を撮るのによいがキノコの場合は50ミリのマクロが一番よい。

### ○三脚

・いかにカメラがよくてもしっかりした三脚がなければいい写真は撮れない。それで三脚には金をかける。値段も8～9万位で、雲台も4万円位はするものを使つていて（アーキストリアルという会社の手作り雲台で、絶対にガタがこないと伊沢さん自慢）。いままでに三

脚は10何本か使ったと思う。

・ベルボンミニFは安くてサブの三脚としておすすめする。雲台の上に自由雲台をつけるとローアングルで撮り易く横に倒しても使えるし、殆どのアングルで撮れる。「ただあまり動くので指をはさんだりで馴れるまでは大変、自由雲台を緩める時は必ずカメラを持って行うように習慣づけて下さい。」

#### ○フィルム

ネガフィルムは現像でどうでも色が変わるのでスライド用のポジフィルムを使用している。ポジフィルムは数多く撮ると値段も安くつくスライドにも使える。感度はASA 100～50がよく粒子を優先した方がよい。私はフジのベルビアをASA50→100に増感して使っているが、増感すると割増料をとられる。

#### ○その他どうしても必要なもの

- ・小道具類（ピンセット、小筆）；キノコは落葉とか一緒になっているので小さなゴミまでいかにきれいに掃除して撮るかが大切。マツの花粉をピンセットで除いたこともある。
- ・グリップ、ナイフ、移植ゴテ；冬虫夏草なんか撮るとき地面を掘ったりするのに使う。

—ここで伊沢さんが特に強調されたこと—

「いい写真を撮るにはキノコに愛情を持つことが大切。主観的なものだが愛情を持っているとすばらしく見えるし、きれいだなあ、すてきだなあと思う。感情を移入することも大事」

- ・レフ；既成の写真用レフもあるがアルミホイルを利用してつくるとよい。折たたみも出来るし使えば使うほどシワが出来てよくなる。
- ・網引；（あとで野外で使い方を実習）
- ・透明なカサ；雨のとき利用する。黒いカサでは見えなくなってしまう。

「私は天気のいい日は殆ど撮らないで曇りか雨の日に撮るようにしている」

・白いカサ；天気のいい日に木漏れ日でムラになっているときなどに使うと曇りの日と同じになる。値段は安いけどなかなか売っていない。20年間でデパートで売っていたのは2本しか見なかった。共同で10本か20本とかたのめば値段も1500円か2000円位で手に入るかも。

#### 質疑応答 Q & A

Q；露出時間はどれくらいですか。

A；シャッターショックを防ぐためシャッター速度は長くする。絞り込んでも1秒や2秒などでシャッターが切れるような明るい場所で撮影しなければならない場合、シャッターショックの影響を防ぐため、わざとフィルターを使い露光時間を長くする場合もある。

Q；フィルターは何を使っていますか。

A；曇天用としてW2とW4があり、私はW2をよく使っている。W2は青みをおさえるのによく、青空の影響が強いときなどに使用する。C2は赤みおさえるのに使用。直射日光を白いカサを通して撮るとき赤みが出てくるのでC2を使用している。（カラー用フィルターはメーカーによって記号表示が違いますが、ケンコー製品の場合はアンバー系をW、ブルー系をCの記号で表します。曇天・日陰用にはW2、明るい雨天・曇天用にはW4があり、いずれも青味を抑え、雲の厚さや色、状況に応じて使い分けられます。朝夕用としてはC2、C4があり、いずれも光の赤みを防ぎ、季節・撮影時間により使い分けをします。他のメーカー製品については写真専門誌－カメラ年鑑などを見てください）

Q；一つのキノコを撮るのに何枚位りますか。

A；間違いないように撮ろうとすると基準1枚に補正上下1シボリずつで3枚を基準とし

ている。2シボリりずつ加わると7枚になるが3～4枚が普通です。（ここで伊沢さんが言うシボリとは露出補正ダイアルのこと、実際に絞りを変化させるわけではない。1シボリとは補正ダイアルで±1/3のこと）

Q；ストロボの使い方を教えて下さい。

A；正面からストロボをたくと反対側に強い影が出て不自然になる。延長コードとレフを使ってやるのが一番簡単な方法。（この方法は保育社発行「検索入門 きのこ図鑑」に図入りで解説がでています）。またストロボの分割発光も効果的。（これはストロボ光を小光量にしてあちこちから分割発光させ、散乱光と同じ状態をつくり出すもので、ストロボの発光回数を多くして全体にムラなく光を当てることが可能で、ごく自然な感じに撮影できるのが最大の長所です。この方法はまずB（バルブ）にしてシャッターを切ります。ストロボコードは使わず手動であちこちから必要なだけ発光させ、4分の1光量なら4回、8分の1光量なら8回発光させます。時にはバック用にも余分に発光させます。しかし、この方法はかなりの経験が必要です。あとにも述べますが、ダイレクト測光方式をとっているカメラでは、この分割発光による撮影をオートにするだけで適正露出で撮影することができ、初心者にも手軽に分割発光による撮影が可能です。）

Q；ストロボの使用頻度は。

A；暗くてどうしようもない時だけ使うので2～3%で5%まではない。変形菌撮影のときは結構使うことがある。

Q；長時間露出すると色がシフトすると言うがそれはどうすればよいでしょう。

A；エクタクロームは長い時間露出すると色が変化し感度が低下するので、標準から+の方に露出時間を長くして調整。フジは案外色の変化はないがエクタクロームは赤みが強くなる。ベルビアは色の方は問題ない。露出時間の変化は調整出来る。今のところ現像の段階では考えていない。

Q；バックを黒くしたいときはどうしたらよいでしょう。

A；カメラバックの中にいろいろなものが入っているが黒いカサも持っている。バックを黒くするときは黒いカサを使う。黒いカサでバックを覆う。白いカサと黒いカサを使い分ける。もっとも簡単な方法はレフ用のアルミホイルを使ってバックを覆ってもよい。

Q；カメラバックの中にそんなに持って重たくないですか。（笑）

A；重い。10年前から腰痛がある。それから、かがんでやるのも結構きつい。カメラ3台、広角・望遠レンズ、三脚、ファインダー、ストロボなど全部で4～5kgほどになる。

Q；カメラとは別になっている単独の露出計を使う事がありますか。

A；私の場合はカメラの露出計を使っている。

Q；今まで使われたカメラの批評、これはだめだったと言うようなことを聞かせて下さい。

A；ペンタックスSP：画面が暗いし湿気に弱かった。

ニコンF2：ニコンは間違ひがないと思っていたがニコンの24ミリの広角レンズを接写状態で使用してみたところ、真ん中だけしかピントが合わなかった。ニコンの会社に連絡したところニコンではそんな設計はしていないと云うことで対応してくれなかつた。

オリンパスOM2：小さくて接写性がすぐれているが、湿気に弱く電子機構が動かなくなってしまう。

ペンタックスLX：防水機構がすぐれショックにも強い。もう4～5年使用しており、雨の中で撮ったこともあったが故障したことは一回もなかつた。その他、友達の評判ではキャノン、コンタックスは結構いいと聞いている。コンタックスは値段が高い。ペンタッ

クスは値段が安いわりには良いカメラである。

(キノコ撮影用のカメラは、そもそも暗いところで撮影することが多く、長時間の露出に適性な測光方式をとっているカメラだと使い易い。オリンパスのOM 2、3、4型とペンタックスのLXは、ダイレクト測光といって、シャッターが開いた後で、フィルム面の光を直接測光し、積算し、露出が適正になったところでシャッターを閉じる方式を採用しているカメラである。この方法だと、露光している最中に光の条件が変化しても問題はない。だからカメラを固定しておいて、シャッターを開き、ストロボを無関係に発光させても、露出はいつも適正である。であるから、キノコのカメラといえばどちらの会社のカメラか、ということになる。そして伊沢さんは、湿度に非常に強い防滴仕様であること、機械的にも頑丈であること、等から完全にペンタックスのLXに軍配をあげている。)

Q ; 中型カメラは何を使っていますか。

A ; ペンタックス 6×7。露出計の性能が悪かったのでペンタックスの 6×4.5 を現在使っている。ゼンザプロニカは友達が使っているが、ピントと色が良くなかった。

Q ; 野外撮影の時、蚊がぶんぶんしているが先生はどうされていますか。

A ; 携帯用の蚊とり線香を使っています。私はさされても30分あればもとに戻ります。(笑)

Q ; マニュアルのレンズとオートフォーカスのレンズについて教えて下さい。

A ; オートフォーカスのマクロレンズは1/2(フィルム面に実物の1/2倍に写る倍率)までは問題がないが、等倍になるととにかく不安がある。また、オートフォーカスのレンズは、軽く回転するように設計しており、レンズの重みでピントが狂うことがある。レンズの焦点深度の表示方法にも問題がある。中古でマニュアルのレンズがあれば買っておいた方がよい。ピント合わせの時マニュアルのレンズが一番使いやすい。

Q ; 絞りの決定の仕方を教えてください。

A ; ピントは手前から奥までいかに合うかと云う事で、キノコの場合原則としてF2.2までいっぱいに絞り込んでいる。あとは経験である。

「1枚の写真の中にいろんな情報を盛り込んで撮るが、やはり、ムードのある写真是好きです。ばかりしてムードを出すのではなく、鮮明に撮っていかにムードを出すかが大切で、そのために背景に落葉をいれるとかいろいろ工夫します。」

Q ; 小さなキノコを撮る時はどうすればよいか教えてください。

A ; ベローズや拡大専用のレンズもあるが結構重いので、カメラに接写リングをつけてからリバースリングを使って28ミリの広角レンズを逆向につけて使っている。(リバースリングは発売していないメーカーもあります) これでやると4-5倍位(フィルム面に実物の4-5倍)にはなっていると思う。レンズキャップの中心に適当な大きさの穴をあけると簡易レンズフードとなり便利。ペンタックスのいいところは接写リングに伸び縮みするヘリコイドがついていて、ピントを調整することができる。

「ちょっと来て、どの位の拡大倍率になるか見て下さい。下手な拡大用マクロレンズより性能がいいでしょう。オリンパスは拡大用マクロレンズに力を入れているのでリバースリングは作っていません。」

さすが伊沢さんのプロとしての長い実践経験からくるお話は興味深く尽きないものがあった。日頃、知りたいと思っていたキノコ写真術の裏表を披露してもらい講座は熱心な中にも笑いに包まれたなごやかな雰囲気の中で前半の講義の部を終了した。

編集部から；幼稚園時代から伊沢さんに入門している小西幹事に伊沢さんをくどいてもらい、このような有意義な講座をもつことができました。なるべく講座の雰囲気が伝わるように記録の方に工夫して書いて頂きました。実演を含んだ講座でしたので、見ないとわかりづらいと思われる部分等に関し

ては、蛇足であるとは思いながら、記録の方と相談して文章中に（ ）入で解説をつけ加えました。また読みやすくするため、話しの順序を入れ替えたり、要約した部分もあります。今回の分は午前中の講義で、午後の実技は次回の会報に載ります。いよいよ伊沢さんの秘技にせまります。当日の講座の様子は、午前午後ともにソニー社のハイエイト型のビデオに収めてありますのでご希望の方はご連絡下さい。

## 第7回採集会のお知らせ

7月と同じく泉自然公園で行います。今年もありがたいことに本郷先生がお見えになり、同定をしてくださいます。今回のキノコはいかなる顔ぶれでしょうか。

日 時：10月23日（土）

10:00～15:00

場 所：泉自然公園 千葉市若葉区野呂町108

tel 043-228-0080

講 師：本郷次雄（滋賀大学名誉教授）

集 合：10時、駐車場奥の大きな木の下

持 物：昼食、採集道具他

担 当：阿部代始子（tel 043-236-0498）

石田いし子（tel 043-262-9298）

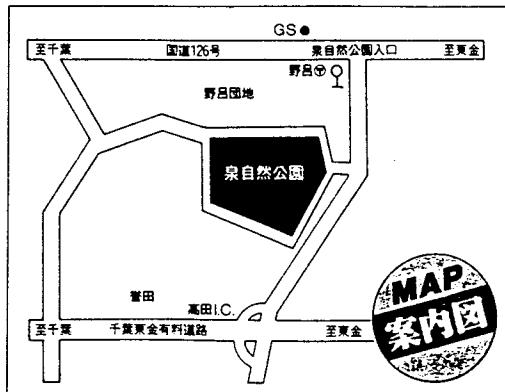
\*小雨決行（当時は9:00AM、石田まで）

参加希望者は9月30日迄に談話会事務局へふつうの葉書でお申し込みください。当日は、傷害保健には加入していませんので、各自ケガ、事故等のないようにご注意下さい。

交 通：JR千葉駅または京成電鉄千葉中央駅より、ともにバス停7番線成東行きか中野操車場行きで「泉自然公園」下車、徒歩10分。

\*バスは1時間に4本程度、約40分、480円

※草むらを歩きますのでまむしには充分気をつけてください。



マイカー利用 国道126号線を東金方面へ野呂町まで、泉自然公園入口（案内標識）を右折し又は、東金有料道路、高田、蒼田インターで下り、左折して1km程度です。

## 第6回採集会記録

93年7月24日（土） 泉自然公園 ／参加者：28名／採集種数：91点

ひどい雨模様の天気でしたが、阿部・石田幹事のお蔭で楽しい採集会になりました。タマゴタケやナラタケモドキのようなものは、会が終わったとたんになくなりました。採れたキノコは91種、名前がついたものは55種（うち39種を標本化）、その他36種を標本にしました。千葉大学園芸学部の篠山研究室の学生さんが当日の種のカウントに協力してくれました。この7月に名古屋でキノコによる死亡事件がありましたが、その原因菌と推定されている、シロタマゴテンクタケやドクツルタケも沢山採集されました。10月の本郷先生を迎えての採集会も泉自然公園を考えています。採集したキノコは中央博物館に凍結乾燥して標本として保存しています。会員の協力で、博物館の収蔵庫もやっと体裁を整えてきました。何が採れているかパソコンで検索できます。千葉県の植物相の調査は早い時期からとりくまれており、植物目録作りの先進県でしたが、ちゃんとしたキノコの目録はできません。標本をもとにした目録作りをはやく進めたいと思っております。（吹春、腰野）

登録番号	学名	和名
1	Amanita ceciliae (Berk. et Br.) Bas	テングツルタケ
2	5903 Amanita citrina (Schaeff.) Pers.	シロタマゴテングタケ
3	Amanita hemibapha (Berk. et Br.) Sacc.	タマゴタケ
4	Amanita longistriata Imai	タマゴテングタケモドキ
5	Amanita subjunquillea Imai	タマゴタケモドキ
6	5902 Amanita virosa (Fr.) Bertillon	ドクツルタケ
7	5832 Amanita volvata (Peck) Martin	フクロツルタケ
8	Armillariella tabescens (Scop.) Sing.	ナラタケモドキ
9	5858 Astraeus hygrometricus (Pers.) Morgan	ツチグリ
10	5864 Auricularia polytricha (Mont.) Sacc.	アラゲキクラゲ
11	5867 Boletus fraternus Peck	コウジタケ
12	Calvatia craniiformis (Schw.) Fr.	ノウタケ
13	5835 Clavulina cristata (Fr.) Schroet.	カレエダタケ
14	5847 Collybia dryophila (Bull.: Fr.) Kummer	モリノカレバタケ
15	5898 Collybia neofusipes Hongo	アカチャツエタケ
16	Coltricia cinnamomea (Pers.) Murr.	ニッケイタケ
17	5857 Coriolus versicolor (L.: Fr.) Quel.	カワラタケ
18	5895 Descolea flavoannulata (L. Vassil.) Horak	キショウゲンジ
19	Ganoderma lucidum (Leyss.: Fr.) Karst.	マンネンタケ
20	5884 Geastrum lageniforme (Vitt.) Imai	トガリフクロツチグリ
21	5896 Gyroporus castaneus (Bull.: Fr.) Quel.	クリイロイグチ
22	5852 Helvella crispa (Scop.) Fr.	ノボリリュウタケ
23	Hygrocybe conica (Scop.: Fr.) Kummer	アカヤマタケ
24	5838 Inocybe kobayasi Hongo	コバヤシアセタケ
25	5869 Isaria atypicola Yasuda	クモタケ
26	Laccaria vinaceoavellanea Hongo	カレバキツネタケ
27	5892 Lactarius uvidus (Fr.: Fr.) Fr.	トビチャチチタケ?
28	Lactarius volemus (Fr.) Fr.	チチタケ
29	5851 Leotia lubrica (Scop.) Pers.: Fr.	ズキンタケ
30	5894 Lepiota acutesquamosa (Weinm.: Fr.) Gill.s.lat	オニタケ
31	5879 Lycoperdon perlatum Pers.: Pers.	ホコリタケ
32	5878 Marasmius maximus Hongo	オオホウライタケ
33	5836 Microporus vernicipes (Berk.) Imazeki	ツヤウチワタケ
34	5834 Mutinus bambusinus (Zoll.) Fisch.	キツネノエフデ
35	Naematoloma fasciculare (Hudson: Fr.) Karst.	ニガクリタケ
36	Omphalina epichysium (Pers.: Fr.) Quel.	ヒダサカズキタケ
37	5843 Oudemansiella platyphylla (Pers.: Fr.) Moser in Gams	ヒロヒダタケ
38	5848 Oudemansiella radicata (Rehman: Fr.) Sing.	ツエタケ
39	5860 Paxillus panuoides (Fr.: Fr.) Fr.	イチョウタケ
40	5859 Pleurotus salmoneostramineus L. Vass.	トキイロヒラタケ?
41	Pluteus atricapillus (Batsch) Fayod	ウラベニガサ
42	Polyporus arcularius Bastch.: Fr.	アミスギタケ
43	5899 Polyporus varius Pers.: Fr.	キアシグロタケ
44	5856 Polyporus badius (Pers.: S. F. Gray) Schw.	アシグロタケ
45	Pseudohydnum gelatinosum (Scop.: Fr.) Karst.	ニカワハリタケ
46	5840 Pycnoporus coccineus (Fr.) Bond. et Sing.	ヒイロタケ
47	5849 Rhodophyllus rhodopolius (Fr.) Quel.	クサウラベニタケ
48	5874 Russula foetens Pers.: Fr.	クサハツ
49	5875 Russula laurocerasi Melzer	クサハツモドキ
50	5865 Russula senecis Imai	オキナクサハツ
51	5850 Russula sororia (Fr.) Romell	キチャハツ
52	5897 Trichoglossum hirsutum (Pers.: Fr.) Bourd.	テングノメシガイ
53	5873 Tricholoma flavovirens (Pers.: Fr.) Lund.	キシメジ?
54	Tylopilus fumosipes (Peck) A. H. Smith et Theirs	アイゾメクロイグチ
55	5877 Xeromphalina campanella (Batsch: Fr.) Maire	ヒメカバイロタケ

## 本の紹介

「Mushrooms & Toadstools きのこ 小林路子画集」 山と渓谷社 定価3,000円

ファンタスティックなキノコの絵を描いていらっしゃる小林路子さんが、またもや新しい本を出されました。山と渓谷社から出た「Mushrooms & Toadstools きのこ 小林路子画集」です。この本がアパートに届けられた日、テレビのニュースでは1ドルほとんど100円と報じていました。日本がお金持ちになったことと、このようなオリジナルな新境地をひらくような画集が出版されることはパラレルなことだ、といってしまうには簡単なことなのでしょうが、それでも日本の中ノコの層の厚さを感じます。2年前の秋に岩崎書店から出版された「森のキノコ」の、そのオリジナルなアイデアに満ちあふれた絵本は、本当に日本が誇る出版物という感じがしました。このような本をみていると、江戸時代に出版された「本草図譜」を思い出します。この爛熟期の江戸が生み出した図譜集は、本草学からはじまった実用の学問が、何の役にも立たない生物群を正面から堂々と扱い始めたという意味で本格的な「博物学」の始まりということができます。それに加えて、極めて日本的な図版のキテレツさ・美しさは「独創的な図版」という表現を通り越して、日本の江戸博物学の到達点として忘れてはならないものです。それから150年、絵画的にオリジナルで、分類的にも正確な図版集が出版されることになったのです。この「分類的にも正確」という点が重要なことです。自然科学の図書においてはこの正確さが重要なポイントです。写真もそうですが、名前が正確であることが、作品の価値を高めます。この点、日本のキノコ相を地味に調べた偉大な先人に対して感謝しないではいられません。キノコの生態調査などをしていても、そう思います。とにかく本書を手に取って見てください。できれば巻末の解説は、日本語にあわせて英語で解説が欲しいと思いました。海外からのお客様に自慢してプレゼントできます。そんなことを思わせるような実に美しい本です。（春）



## お知らせ

### ◎講座ビデオのご案内

博物館や談話会の講座がビデオで見られます。

- 1) 92年度第1回 「ハラタケ目の分類」 本郷次雄（滋賀大学名誉教授）
- 2) 92年度第4回 「糞生菌の分類」 古谷航平（三共株式会社筑波研究所）
- 3) 92年度第5回 「植物の病気をおこす菌類」 勝屋敬三（筑波大学農林学系教授）
- 4) 92年度第6回 「盤菌類の分類」 長尾英幸（千葉大学園芸学部）
- 5) 談話会第1回講座 「キノコ写真の撮り方」 講師：伊沢正名

現在のところ 1) はカセットがS-VHS-Cですが、VHS（普通のビデオ）に落としました。2日分入りです。2)-5) はカセットがソニーのHi 8です。未だVHSに落としていません。どなたかご協力ください。ご利用希望の方は博物館の吹春までご連絡下さい。

## ◎写真展のご案内

松戸市の美術館で、本会会員である大作晃一さんの「キノコの写真展」が開催されます。60点以上の写真が展示される予定です。楽しみですね。

期間：9月25日（土）～10月6日（水）／開館10：00～17：30（月曜休館）

場所：ミュゼ・デュ・コルザ 菜の花美術館 松戸市三矢小台4-16-6 電話0473-66-6301

交通：電車／JR及び新京成松戸駅下車、東口よりタクシーで10分。車／国道6号線2中前交差点を市川方面へ5分。松戸市役所矢切出張所すぐ。入館料：1000円

また佐倉市の川村記念美術館でもキノコの写真展の開催が予定されます。川村記念美術館は優れた美術品を擁することでも有名ですが、敷地内に千葉の自然を生かしたかたちで散策路が設けられ、クマガイソウ、ヤマユリ、カタクリなどの群生を見ることができることでも有名です。都市型の美術館とは違った趣を味わえます。

期間：10月27日（水）～10月31日（日）／開館10：30～16：30

場所：川村記念美術館内ギャラリー 佐倉市坂戸631 電話0434-98-2131

## ◎中央博物館「菌類分類学講座」

### 1. 開催日時・講座名

第1回93年9月23日（木）「ケトミウム属の分類と生態」講師：堀江義一（中央博物館）

第2回93年10月24日（日）「ハラタケ目の分類」講師：本郷次雄（滋賀大学名誉教授）

第3回93年11月21日（日）「キノコの一生とその生理」講師：鈴木彰（千葉大学助教授）

第4回93年12月19日（日）「ベニシリウムとその近縁菌のテレオモルフについて」  
講師：高田正樹（旭化成工業株式会社 天然物化学研究所）

第5回94年1月30日（日）「地衣類」講師：原田浩（中央博物館）

第6回94年2月20日（日）「イグチ目の分けたかた入門」講師：吹春俊光（中央博物館）

\*いずれも千葉県立中央博物館研修室において午前10時～午後3時まで。定員16名。参加費無料。

2. 申し込み方法：参加ご希望の方は各講座開催日の1ヶ月前から2週間前までに、下記宛先まで往復葉書で、年齢・住所・電話番号を明記の上お申し込み下さい。申し込み多数の場合は抽選となります。なお、各講座は独立した講座となっており、それぞれ御申込頂けます。また連続して参加ご希望の方はその旨明記して一枚の往復ハガキでお申込み下さい。なお第5回「地衣類」は担当が異なり連続申込はできません。別ハガキでお申込下さい。

3. 申し込み先：千葉県立中央博物館植物研究科、第〇回菌類講座「・・・について」

〒260 千葉市中央区青葉町955-2番地 電話：043-265-3921（植物科）

## ◎寄贈本

「紅天狗 第2号」（信州きのこの会）が事務局に届いています。ありがとうございました。

## 編集後記

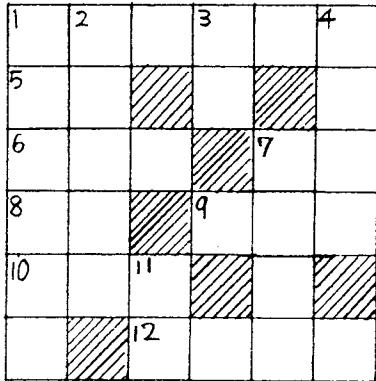
\*今年度の表紙を飾っているのは北川さんの絵、文による創作きのこ話です。ツチグリは童話、コガネタケは昔ばなしでした。さて、次号はどんなキノコでお話を作ってくれるでしょうか。（良）

\*今回は根田さんの連載はお休みです。原稿の締切と横浜で開催された国際植物学会議が重なったのが原因です。マツオウジの仲間の日本新産種を含めたrRNA（だったかな？）を利用した系統関係の発表でした。連載からは予想できないお堅い研究です。11月の採集会も、先生に予定している服部さんがもしかしたら長期出張となり、先生不在の採集会になるかもしれません。残念です。（春）

解けばその名が浮き上がる

## あぶり出しキノコ・パズル(2)

田 喜 克哉



### タテのカギ

1. アイヌ人の神聖なる峡谷。
2. ロシヤの弦楽器。
3. ○○より証拠。
4. ミズゴケタケに近縁。
7. からだのこと。
11. おおまか。

### ヨコのカギ

1. クリタケに近縁。
5. 1億円で○○おこし。
6. 瓦。
7. 近畿の県名。
8. ○○の滝のぼり。
9. 「○○○しぐれ」を唄えるには、かなりの授業料を---
10. 会津磐梯山は○○○の山よ。
12. 蛙が飛びこむ。

問い合わせ：1.のナナメはナンジャラホイ？

### 前号の答 「アミガサタケ」

1	ア	セ	タ	3	ケ		4	サ
5	カ	ミ		6	ガ	ン	マ	
7	カ	タ	ガ	キ			ツ	
8	コ	ケ		9	サ	ワ		
	タ		11	ア	シ	タ	12	バ
13	ケ	ジ	メ		14	シ	ケ	

千葉菌類談話会通信 No. 5 1993年9月5日印刷、発行

会長：腰野文男

事務局：千葉県立中央博物館 植物科 吹春 気付「千葉菌類談話会」

千葉市中央区青葉町955-2

電話：043-265-3921 Fax：043-266-2481

郵便振替口座：東京0-550400「千葉菌類談話会」